



人々の移動をより安全・安心・快適にするとともに、
便利で効率化する可能性に挑戦し、
豊で活力のある社会の創造を目指します

**三菱自動車らしい商品や技術を提供し
ビジョン実現を目指す**

近年の自動車業界は、地球温暖化対策としての電動化に加え、パワートレインの多様化、クルマの知能化・IoT化など、次々と技術革新が起きています。このような大変革期中、「モビリティの可能性を追求し、活力ある社会をつくり出す」というビジョンのもと、三菱自動車は、誰もがいつでもどこへでも自由に移動でき、見たいものを見て、会いたい人に会うことのできる、ワクワクする冒険を体験できる、そしてどんな冒険からも無事に帰ることができる、そのような機会の提供を目指しています。

このビジョンの実現に向けて重要な鍵となるのは、三菱自動車ならではの商品や技術、サービスを通じて、お客様との長期的な信頼関係を構築し、ブランド価値を高めることです。そこで私たちのブランド価値をお客様に一層ご理解頂くために「三菱自動車らしさ」を再定義しました。「三菱

自動車らしさ」とは、「『環境×安全・安心・快適』を実現する技術に裏付けられた信頼感により、冒険心を呼び覚ます心豊かなモビリティライフをお客様に提供すること」です。これを、あらゆる機会を通じてお客様に御理解・共感いただくことで、三菱自動車ブランドを強化し、価値訴求ビジネスの浸透を図っていきたくと考えています。

**マテリアリティにもとづいた企業活動で
社会やステークホルダーのニーズや期待に応える**

さらに、ビジョンの実現に向けて不可欠な三菱自動車の持続的成長を達成するために、2018年度に環境・社会・ガバナンス各分野のさまざまな課題から取り組むべき重要課題であるマテリアリティを特定し、その後も必要に応じて柔軟に見直しています。マテリアリティに取り組むことで社会やステークホルダーのニーズや期待に応えていきたくと考えています。

その実効性を高めるために、14のマテリアリティすべてに役員・本部長の責任者を定めるとともに、私が委員長を務めるサステナビリティ委員会で、環境・社会・ガバナンスに関して取り組むべきと特定したマテリアリティに対し、目標を審議し、その進捗確認を行い、PDCA (Plan, Do, Check, Action) を回しています。

特に、「気候変動・エネルギー問題への対応」については、2022年に、サプライチェーン全体で2050年カーボンニュートラルの実現を目指すことを宣言し、あわせて「環境ビジョン2050」を改定しました。また、2023年には、2050年カーボンニュートラルの実現に向けたマイルストーンとして、「環境ターゲット2030」の目標を見直しました。製品においても、プラグインハイブリッド車 (PHEV) と軽商用EVを起点に、電動車の開発や内燃機関車の燃費改善などを推進し、各国・地域のエネルギー事情やインフラ整備状況、お客様のニーズに応じた最適な電動車を積極的に投入しています。事業活動においては、エネルギーミニマム化と再生

可能エネルギーへの転換を推進し、CO₂排出量の削減に取り組んでいます。

一方で、持続的成長の源泉である人的資本については、ビジョンを実現するために必要な人材の育成・確保を図ります。具体的には、育児や介護に配慮した柔軟な勤務体系の整備による働きやすい職場への改革、海外との相互社員派遣研修制度の拡大やDXリスクリングプログラムの導入、フレキシブルな給与体系の導入や多様な人材が活躍できる職場の構築による多様で幅広い人材確保の推進など職場環境を整えています。

**中期経営計画を着実に進捗させ
さらなる成長と次の時代へのチャレンジを実現する**

2023年度にスタートした中期経営計画「Challenge 2025」のもと、三菱自動車はビジョンの実現に向けて新た



な一歩を踏み出しています。私たちは、モビリティビジネスの革新を進めるとともに、地球規模でのカーボンニュートラルの実現に取り組んでいます。また、人権を尊重し、多様な人材が活躍できる職場環境の確立を目指し、持続的成長に向けた取り組みを一層加速させています。

三菱自動車は、これまでの構造改革を通じて培った強靱かつ機動的な経営体質を基盤に、地域や国ごとの特性に応じた事業の拡充に注力しています。また、台当たりの収益性を高めるための改善活動を継続し、安定的な収益基盤の確立にも取り組んでいます。さらに、持続的な成長と未来へのチャレンジにむけて、研究開発費や設備投資の安定的な増加を進め、次世代のイノベーションを実現するための準備を整えています。

「Challenge 2025」の初年度である2023年度は、まさに転換点となる1年でした。中国やロシアの状況を踏まえた地域ポートフォリオの見直しや、アライアンスパートナーからの新型車導入を含む車両ラインアップの刷新、商品構成

の見直し、そして三菱自動車初となるハイブリッド車(HEV)の投入など、過去の流れを大きく変える取り組みが行われました。また、三菱自動車らしさを体現した『デリカミニ』や『トライトン』の成功、ここ数年の開発の成果であるハイブリッドモデルのヒットにより、一定の収益を上げるとともに、次の成長に向けた確かな手ごたえを得た1年でもありました。

具体的には、アセアン戦略車として新型1トンピックアップトラック『トライトン』、新型コンパクトSUV『エクスポース』、クロスオーバーMPV『エクスパンダー』および『エクスパンダー クロス』のハイブリッドモデルを次々と投入しました。販売面では、台当たりの収益改善活動による販売価格の見直しに加え、為替の追い風もあり、台当たり売上が伸びています。地域別にみると、アセアン向け商品が展開可能な中南米、中東・アフリカで収益性が向上し、北米では価値訴求販売へのシフトが実現しました。一方、中国市場では、急速な市場変化を受けて、戦略を抜本的に見直し、現地での完成車生産を取りやめました。また、ロシアでは、

ウクライナへの軍事侵攻を受け、完成車組立生産を停止していましたが、生産を再開しないことを決定しました。持続的成長を実現するための投資として、電動化の加速フェーズに対応するための電動車開発やアライアンスとの連携強化に向けて、ルノーグループが設立するEV新会社「アンペア」への出資を決定しました。アンペアとの協業の第一弾として、欧州市場において、アンペア社より、EVのOEM供給を受ける予定です。

自動車業界における急速かつ大きな変化の節目を上手く捉えチャンスに変える

自動車業界においては、バッテリーEVの需要が一時的に踊り場を迎えている中、HEVやPHEVの存在感が増えています。このような急速で大きな変化に対応するため、私たちは持続可能なモビリティソリューションの提供に尽力し、

進化するニーズに応じています。一方で、全体の大きな変化の方向性には変わりがないと考えており、変化の節目を見極めてこれをチャンスに変えるべく、2024年度は一層の成長に向けた具体的な戦略を実行に移していきます。

これらの取り組みを通じて、お客様や株主様をはじめとしたすべてのステークホルダーの皆様のご期待を超える価値を創造し続けることで、持続可能な未来に向けたリーダーシップを確立してまいりますので、引き続きご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

三菱自動車工業株式会社
取締役
代表執行役社長 兼 最高経営責任者
加藤 隆雄

加藤 隆雄